



フッ素で効果的なムシ歯予防を！



★フクグクうがいができるようになったら

フッ素＋還元パラチノース(助剤)配合ハミガキ
歯質を強化し効果的にムシ歯予防

1. フッ素＋還元パラチノース(助剤)配合。効果的にムシ歯を予防。
2. お子さまに人気の、ほんのり甘みのある透明ジェルを使用！
3. 泡が立たないので仕上げみがきの時にお子さまのお口の中が点検しやすい



★フッ素の効果

1. 再石灰化の促進…唾液中のカルシウムなどを取り込み再石灰化を促進します。
2. 歯質の強化…フッ素を歯に取り込むことで、酸に溶けにくい歯になります。
3. お口の細菌の活動を抑える…ムシ歯の原因となる細菌の働きを抑え、酸産生を抑制してムシ歯になりにくい状態にします。



★処方にもこだわりました★

1. 清掃剤<研磨剤>・発泡剤は一切不使用！
2. 透明ジェルで無香料・ミントも無配合
3. 食品素材と低濃度フッ素配合です。



商品のご紹介 早い時期から効果的にムシ歯予防を！！



薬用 フッソジェル(医薬部外品)

初期ムシ歯に効果的なフッ素

フクグクうがいが出るようになったお子さまに。
「フッ素＋還元パラチノー(助剤)配合のジェル。
歯質を強化し効果的にムシ歯を予防。
ほんのり甘みのある食品素材とフッ素配合の
透明ハミガキジェル。
泡が立たないので、仕上げみがきの時
にお子さまのお口の中が見えやすいタイプ。



育児期 Child Care

幼児期の時期

ぶくぶくうがいができる頃からの 幼児のお口ケア



未来の赤ちゃんのために

サンスターと
はじめる
赤ちゃんからの
正しいお口ケア



—0才からのオーラルケア

幼児期 Child Care ブラッシングに加えてフッ素をうまく取り入れると効果的です。

子どものムシ歯とフッ素



フッ素で効果的な虫歯予防を！



子どもの歯を健康に保つことはとても大変なこと。ブラッシングに加えてフッ素をうまく取り入れると効果的。ぶくぶくうがいができるようになったところを目安に、おうちでもフッ素入りのジェルやハミガキを使ったムシ歯予防をスタートしましょう。

★ ほっておけない！ 初期ムシ歯

歯みがきは、お箸やペン、はさみなどを使うのと同じく指を使ってみがくもの。指を使うとハブラシの毛先が動く感覚がよく伝わり、丁寧にみがけるようになります。歯みがきは腕の力でみがくのではなく、指を使ってみがくということを教えてあげましょう。



★ ムシ歯予防の大切なポイント

初期ムシ歯やムシ歯を防ぐ大切なポイントの1つは、お口の中のpHが下がったからできるだけ早く回復させてあげること。それには歯みがきが一番効果的です。



ブラッシングで食べカスなどを取り除くことでお口のpHが早く改善し、唾液による歯の修復作用が促進されます。

歯みがきができない赤ちゃんであれば、歯ふきシートなどで歯の表面の汚れを拭いてあげることで効果はあります。

★ 初期ムシ歯に効果的なフッ素

ムシ歯を進行させないために、初期ムシ歯になってしまった歯の修復に効果的に働くのがフッ素です。毎日使うには、フッ素ジェルやハミガキが便利です。

フッ素ってどんなもの？



フッ素ってどんな成分？



フッ素は、自然界に存在する成分です。海の中や土の中に含まれており、フロリデーションといって水道水にフッ素を入れてムシ歯予防している国もあります。(フッ素が多く含まれる食品：魚介類・海藻類・茶・紅茶など)

★ フッ素は体に入っても問題ないの？

微量のフッ素は、歯や骨が作られるときに体に取り入れられますが、それ以外は尿や汗などから出ていきます。医薬部外品の市販のジェルやハミガキは、フッ素の配合濃度の上限が決められており、正しい使い方をしていれば心配することはありません。特に小さいお子さまが使用するものの中には、低濃度のものもあります。

★ フッ素の効果的な活用法

フッ素入りのジェルやハミガキは毎日使うことが大事。ブラッシングの後は軽くゆすぐ程度で、うがいしすぎないようにしましょう。フッ素を口の中に残すことで効果的にムシ歯予防ができます。

★ 家庭用のジェルやハミガキと歯科医院で歯に塗ってもらうフッ素は何が違うの？

その違いは濃度にあります。歯科医院で扱うフッ素は医薬品(フッ化ナトリウム製剤)です。これには、高濃度のフッ素が配合されており、歯にフッ素を塗布することで効果的にムシ歯予防ができます。ムシ歯が心配な場合は、半年に1回くらい歯科医院で定期検査を受け、フッ素の塗布について先生とご相談することをおすすめします。